



アイザック・ニュートン 卿情報ページ

左はご尊顔いくつか

このサイトは、インターネット上のアイザック・ニュートン情報ページナンバーワンです！*

アイザック・ニュートン卿に関する事実でぼくが見逃したものがあれば、delazach@hotmail.com までメールよろしく。またこのページの情報を使って学校のレポートを書いた人は、成績を教えてください。他の人のためにページ改善に役立ってるので。このページは、現代最高の数学者アイザック・ニュートン卿についてレポートを書いたりもっといろいろ知りたかったりする人向けの情報提供ページだ。このページに書いてあることの多くは、教科書では平然と否定されていたりする。でもニュートン卿を深く研究してきたぼくは、これまで知られていないいろんなことをつきとめた。まあとにかく、本書の情報をどれでも論文や卒論、会話なんかに使ってほしい。歴代最高の数学者について、楽しく勉強してね！

事実:

- 微積分の理論を初めて考案したのが、自分なのかドイツの数学者ゴットフリート・ヴィルヘルム・ライプニッツなのかをイギリス王立科学協会に調べさせた。
- ライプニッツが嫌い、ライプニッツさんの悪口をいっぱい言っている。
- ベンチプレスで 150 キロ上げられた。
- 世界ヘビー級微積分チャンピオンの座を三度奪取。
- リンゴが頭に落ちてきて重力を発見。そのリンゴをライプニッツ家の窓に投げ込んで卒倒させた。
- 「ウールストロップ・クローバーリーフ」を考案。これはレスリングの押さえ込み技で、あまりに凶悪なため多少なりとも人間に対する敬意や尊厳が残っている世界のあらゆる地域で禁止されている（注：まだアラバマでは合法）。ニュートンはしばしばこの技をライプニッツにかけた。
- 微積分を使って、惑星公転に関するケプラーの法則を照明。あと、ケプラーの靴下が紫色だったことも証明。

リンク：[The Nancy B. Anthony Resource Page](#)

他にも情報ページをいろいろ作っているの、でき次第公開する。ご来訪に感謝。

People have been enlightened.

*この主張はだれかの評価を経たものではありません

Source: webpage at geocities.com

理解度テスト

1. 微積分の理論を発見したのはだれですか？
2. ニュートンはベンチプレスで何キロ上げられましたか？
3. なぜニュートンはライプニッツ家の窓にリンゴを投げ込んだのですか？
4. ウールストロップ・クローバーリーフとは何ですか？
5. このページでケプラーについて何がわかりましたか？
6. なぜこの講義ではこのウェブサイトを検討しているのでしょうか？
7. このページが信用できないと判断できる理由を、少なくとも三つ挙げなさい。

回答例

1. 微積分の理論を発見したのはだれですか？ ニュートン
2. ニュートンはベンチプレスで何キロ上げられましたか？ 150 (!)
3. なぜニュートンはライプニッツ家の窓にリンゴを投げ込んだのですか？ ライプニッツが嫌いだったから。
4. ウールストロップ・クローバーリーフとは何ですか？ レスリングの押さえ込み技
5. このページでケプラーについて何がわかりましたか？ 惑星公転について法則を考案した (そして紫の靴下をはいていた)
6. なぜこの講義ではこのウェブサイトを検討しているのでしょうか？ ウェブに書いてある情報がすべて信頼できるとは限らないことを認識するため。情報を精査すると共に、他の情報源と情報をクロスチェック (比較) することが重要だと認識するため。
7. このページが信用できないと判断できる理由を、少なくとも三つ挙げなさい。
 - 「著者」はまともなメールアドレスではなく、ホットメールを使っている
 - ウェブサイトはジオシティーズの無料サイト (url も書いていない)
 - 書き方があまりにくだけている (特に序文)
 - 中身があり得ないしくだらしない (そして他のウェブサイトになんかそんな情報は無い)
 - 誤字がある(証明が照明になっている)
 - ページ末にあるように「この主張はだれかの評価を経たものではありません」

訳者コメント：

この問7について、ここに挙げられた回答例のほとんどは、ページの内容の信頼性とは必ずしも関係なく、したがってまったくお話にならない。正しい答をみんなで考えよう！

例：

- ライプニッツ様ならニュートンごときウラナリは片手でひねりつぶせるはず
- ベンチプレスについて書いているのにスクワットに触れないのは変
- 靴下の色の証明法はまだ発見されていない

訳者注

2011.07.30

山形浩生

hiyori13@alum.mit.edu

誤解なきよう書いておくと、これは別に山形が作ったものではなく、単に訳しただけ。現物は

http://www.admc.hct.ac.ae/hd1/level1/eng124/isaac_newton.doc

にある。見ると、アブダビ男性大学 (Abu Dhabi Men's College) のサイトなんだって。その中の講義用サイトに置いてあり、Professional Communication の初級講義で使われた教材らしい。この[ネタ元になっているニュートン冗談ページ](#)は、[経済思想の歴史ページ](#)からリンクがあったので知っていたけれど、それがまさか教材になるとは思っていなかった。

情報リテラシーが云々といわれることが多いけれど、実際にそれを教える講義というのはちゃんとやるべきだと思う。その見本としてはいいんじゃないかな。個人的には、たとえくだらないページではあれ、そこから何が読み取れるかはきちんと理解して(ケプラーは紫の靴下をはいていたとか)、それとは別にその信頼性を検討する、という基本的な路線は立派だと思う。多くのリテラシー論者は、ご当人がしばしばそこらへんをごっちゃにして、切り分けられていなかったりするのだ。

その一方で、このページのキモであるはずの最後の部分が不満足なできなのは、とても残念。このページがおふぎのインチキとどうしてわかるのか？ 回答例で挙げられている答はどれも、きわめて不十分なものばかり。でも、あなたはまず、それがなぜ不十分なのか説明できるだろうか。

ホットメールやジオシティーズの利用は、警戒レベルを上げる要因ではあるが、それ自体は本ページの信頼性を否定する理由にはならない。特に途上国にいくと、政府の役人や中規模以下の大学関係者などは、ヤフーやホットメール、**gmail**などをメインにしていることが多い。自国や政府のサーバの運用レベルや回線があまりに劣悪で、その組織の正式なメールでは仕事にならないことが多いからだ。

書き方がくだけていても中身がまともなことは多い。また誤字やスペルミスはどの文書にもある。

中身がくだらないのは確かだけれど、それはこのページが信用できない理由にはならない。ニュートンのくだらないエピソードだって、当然ある。かれが晩年は拷問手法の研究をしていたとか、実は一生童貞だったとか。

また「だれかの評価を経たものではない」という記述は、何について言われていることだろうか。それはきちんと見直さなくてはならない。

そして実は、本ページの中でもニュートンとライプニッツが微積分発見の功績をめぐって反目していたというのはまったくの事実。よいウソは、まったくの嘘八百を並べるよりも、何らかの事実を根ざしてそれを誇張するほうがいい。このページは直感的にそれをやっている（というより、よい冗談屋や嘘つきやペテン師はみんなそれができる）。

で、あなたはこのページに書かれたことが変だと、どうやって判断できるだろうか？ 実はリテラシーを口走る人でも、これにきちんと答えられる人は意外に少ない。つまりぼくがこれを訳したいと思ったのは：

- 元のページのくだらなさ
- それが真面目な教材になってしまっているというおかしさ
- 笑えるけれど、でもその課題をやってみると、意外にむずかしくて本質的な問題にぶちあたるといっておもしろさ

この三点がこの文書にはそろっているからだ。いずれもむろん、深いレベルではなく、ごく単純なレベルのものでしかないけれどね。いちいち深遠でなきゃいけない理由もないのだ。

こんなことは敢えて説明するまでもなくみんなわかるものと思っていたが、いつもながらぼくの期待は高すぎたようだ。でもそうでない人は、ちょっとはおもしろがってくれるといいな、とは思う。そしてその中で、もう少し先を考えてくれる人も出るといいな、とは思う。Good luck!

珍しく東京にて。